

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 岬
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県大島郡知名町田皆字仙里2242番地
記入者名 (管理者)	有川 春枝
記入日	平成 19年 6月 8日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	毎朝、近くのゴミ捨て場の掃除を利用者と職員が日課とし、地域の方と馴染みの関係を築く機会を設けています。、老人クラブや敬老会、地域への行事にも参加しています。天気の良い日は地域の方との触合い目的も含めて散歩を日課としています。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	朝の申し送り後に理念の唱和を行い、又職員会議後に勉強会を行い、理念・意義について十分話し合い、実践で具体化するよう努力している。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	老人クラブの集会に参加し、グループホームへの理解を拡げる働きかけを行ったり、ホーム便りで地域の人々に理解して貰える様に取り組んでいます。家族には、利用者の状態報告を手紙や電話で行なっています。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	ホーム側から積極的に声かけを行ない、今では、気軽に立ち寄り遊びに来てくれ、お茶を飲んだり親しい近所つきあいができています。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	老人クラブに参加したり、近くの小学校の運動会や保育所のお遊戯会の際は誘いを頂き、参加させてもらってます。地域の方々とのふれあいの機会を大切に交流に努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の一人暮らしの方が調子が悪く、人手が必要なときは、民生員から連絡がきます。その時は民生員と協力しています。これからも、地域の高齢者の皆さんのお役に少しでも立ちたいと思います		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期的な会議の中で自己評価を行い、より良いケアを目指し、外部評価の項目に目を通し、理解し活用しています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの目的を踏まえて、岬での取り組み状況の報告、利用者を理解してくださいのお願い。サービスの実践状況。地域との関わりを説明しました。家族や地域代表、市町村からの要望、助言を受けとめて、サービス向上に活かしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	解らないことは町の保健福祉課の助言や資料を頂き、サービスの質の確保と向上に努めています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者に関わる成年後見制度による情報については、県福祉事務所の職員から知識は得ていますが、今のところ支援する対象者はいません。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	大島地区認知症グループホーム協議会の研修会や島内の講師を招いての勉強会に参加し、又職員間で施設内での虐待は見逃さない様に注意を払っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人は研修機会を与えます。参加し、認知症の基本的な考え方や介護技術習得し、知識、技能を高めています。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	島内のグループホームの交換研修会や老健の夜勤帯に参加したりして、良い所を取り入れてサービスの向上に努めています。又実習生の受け入れも行い、感想を活かしています。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	徳州会主催のレクリエーションに参加の機会を設けたり、職員間のストレス軽減するために話し合いの機会を設けています。勤務体制も できる限り、ストレスを溜めない様に考えて組んでいます。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	個々の努力や勤務状況を把握して、声掛け、励ましを行っています。介護福祉士、介護支援専門員の資格者が介護業務を行っていますので、指導を頂、又介護長を置き各自が向上心を持って働ける様に取り組んでいます。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	アセスメントを十分に行い、職員間で共通理解し、本人自身から困っている事等をよく聞き、相談を受け止める努力をしています。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	利用に至るまで十分な相談、説明を行い、家族の困っている事や不安、求めている事を聴く様に努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたら、その方にとって、どのサービスが適切なのか考えて見極めて対応し、紹介をしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の希望、家族の希望を取り入れながら、いきなりサービスを開始するのではなく、徐々に職員との関係や環境に馴染んでから始めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活暦を把握した上で、その人がその人らしく生活ができる様に心がけ、一緒に過ごす中で喜びや心配事を共感し尊厳の気持ちを忘れずに支援する様に心がけています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	気軽に話しができる様な雰囲気で接し、お茶を飲みながら、何気なく聞き出し不安等の軽減を図っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お互いが感謝し、思っていると良いことを職員は伝え、本人と家族がより良い関係でいられる様に支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人、友達や親戚の面会及び外出、外泊は希望どうり受け入れ、定期的に家を見に行ったり、お墓参りに支援できるように努めています。本人の行き付けの字の床屋さんを利用したり、敬老会には利用者それぞれの字で今までの馴染みの方々と敬老会を過ごして貰える様に各字の区長さんと連携を取って支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握して、トラブルを招かない様に座る席の工夫や、利用者同士が仲良くできる様に職員交えレクや会話をしたり、孤立させない様に努め、楽しいひと時が過ごせる様に支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ターミナルケアをして、亡くなられた方が二名います。亡くなられた後も野菜を持ってきてくださり、とってもいい関係にあります。自分実家の親も是非岬に入居をさせたいとの希望にて、空きを待ち入居されました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや望む暮らしが実現できる様に努めています。困難な場合でも少しでも本人の希望に添うように努力し、満足のいく暮らしを心がけています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしの延長に近い生活を送って貰える様に職員間で把握し、提供する様に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の望む一日が過ごせる様に努め、心身の状態も把握しながら個々の力に合わせた生活リハを行い、メリハリのある、望む暮らしを心がけ支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が適切な、より良いサービスを受けれる様に、本人、家族の要望や意見を聞き、本人の望むくらしや家族の希望を取り入れ、職員の意見も聞き、サービス計画に活かしています。利用者が快適な自立した生活を送れる様に介護計画を作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に変化が生じた時は随時対応し、本人、家族の希望に添う様に話し合いを持ち、介護計画の見直しを行い、適切な計画を作成し、職員間で共有して活かす努力をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個別の記録を行い、昼夜、色分けをして記録しています。情報を共有し実践に活かしています。日々の様子変化を見逃さず、介護計画の見直しに役立てています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外泊、病院受診等の際は家族、本人の希望を聞き柔軟に対応しています。(送迎、時間、期間等)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	誕生者が希望する際は、誕生会などには、地域の老人クラブ、保育所の子供達等に慰問に来てもらい楽しいひと時を過ごしています。消防機関などには消防訓練や緊急時対応を教えて貰ったり、小学校の先生と子供達にはお年寄りを受け入れて貰いたく声をかけを行い、学習の一環として来訪して貰いました。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の意向や体調の変化。必要性に応じてサービス事業所と連絡を取り支援していける様に努めています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センター主催のケアマネ定例会に出席し、必要に応じて連絡や相談できる体制にあります。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望の医療機関を受診できる様に支援しています。本部病院とは、連携は取れて体調の変化時は、相談しすぐに対応してくれます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	院長が認知症に詳しいので、理解し相談しながら支援しています。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携病院からの入居ですので、よく知る看護師がいます。体調の変化時は、気軽に相談しながら支援しています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は、ほとんど毎日職員の面会を心がけて、少しでも安心を与えられる様に支援しています。病院関係者と情報提供でき、相談も気軽に行える体制にあります。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアについては、利用者、家族と日頃から話し合い、家族と本人の思いを重視し、主治医と相談し最良の対処法を決めています。終末ケアを支援するに当たっては、家族、本人の思いを職員全員が共有してより良いケアに努めています。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本部病院と連携を取り、医療が必要なのか？介護が必要なのか？話し合いチーム支援に取り組んでいます。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている			これまでの経過を情報提供して、他の場所に行かれても、利用者に少しでも早くより良いケアを受けて貰える様に支援していきたいと思います。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者ひとり一人のこれまでの生活歴を把握して、プライバシーを傷つけない様又記録や個人情報の取り扱いに気を付けています。申し送りの際も職員だけがわかる様に暗号にしてプライバシーを傷つけない様に努め、言葉遣いにも気を付けて支援するように努めています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者と職員が何でも気軽に話せる信頼関係を保ち、利用者が希望を言え、その方々それぞれの力に合った話や対応に心がけています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆとりを持って、一人ひとりのペースに合わせたケアを行っています。利用者の希望を聞き、なるべく希望に添う様に支援しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴の際の服は、なるべく本人と一緒に好きな服を準備し、更衣も本人の着たい服に着替え貰っています。本人の希望を聞き、理容、美容もなるべく今までの行き付けの字まで連れて行って支援しています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を整理して貰いながら、どの品と組み合わせで煮たら美味しいのか？利用者に関し、食事に楽しみを持ってもらっています。食事の前には嚥下をスムーズにするのを目的に利用者の好きな歌を歌ったり食事を楽しむ環境づくりに努めています。利用者の出来る事は手伝って貰い、例えば、お茶を入れて貰ったり、食器を職員が片付けやすい様にまとめて	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	煙草は吸っている方はいませんが、お酒の好きな方には、寝る前や慶事の際に飲酒しています。嗜好品は自由に好きな場所で好きな時間に楽しめる様に支援しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを記録する事により把握でき、ほとんどの利用者が時間誘導で快適にトイレにて排泄の習慣が身に付いています。気持ちよく排泄支援できています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を決めてありますが、心身の状態や利用者の気分によっては考慮しています。毎日入浴を希望される方は毎日入浴を支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を考慮しながら、決めつけるケアでは無く、本人の望む暮らしを心がけながら支援し、日中も昼食後は、希望者はベッド上で休息を取って貰っています。その他の方は居室でゆっくりと過ごされたり、洗濯たたみや家事手伝いをして貰ったりしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの方の力に合わせた役割を支援しています。(例) (洗濯たたみもタオルだけをたたむ方、下拭をきたたむ方、服をたたむ方、服のしわを伸ばす方) 入居者全員に、できる喜びを感じて貰いたいと思いながら支援しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは自分で管理できる範囲で持っています。散歩の際は職員と一緒に出かけ近くの店に立ち寄り、好きな物をお金と相談しながら使える様に支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外の空気を吸って自然を感じ、気分転換を図り、又地域の方とふれあう事により活気を貰う目的にて散歩の時間を設けています。近くのゴミ捨て場の掃除を日課とし、利用者を戸外に誘って一緒に掃除をしています。散歩の時間以外でも利用者の希望の際は散歩に出掛けています。散歩に適した場所にホームがあり嬉しく思っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お家を見に行ったり、お墓参りを希望される方は、家族にも声を掛けを行い、家族、職員と他の利用者も一緒に出掛けています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りの出来る方は、封筒、便箋を準備して、書いてもらい一緒に近くの郵便局まで出しに行く楽しみを支援しています。定期的に家族に電話をしてみませんか？と尋ねたり、家族から掛けて貰ったりして、声を聞いてもらい、施設生活に安心を持って貰える様に支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室や地域交流場、玄関に近い場所に交流場所を設けて、自由に訪問や話ができる様にしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を持ち職員が正しく理解していて、身体拘束は行いません。又研修会にも参加しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は職員同士で連携を取り、鍵は掛けずに、見守りを行っています。利用者が外に出たい様子を感じた時は職員から散歩に誘っています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者の所在を把握し、常に見守りを心がけ、安全に配慮しています。本人のプライバシーに配慮し、羞恥心を傷付けない様に支援し、又居室に入る際は、声掛けやノックをして、許可を貰ってから入る様に心掛けています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物を一律に直すのではなく、利用者の状態を把握し判断して、危険物を取り除いたり保管したり、又状態を見てだしたりする様にしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	消防訓練や緊急時対応等の勉強会や研修会に参加し、又本を読み知識を得て安心して業務ができる様に努め、地域の方、駐在所、消防署、病院と連携を取れる体制作りを行い、又誤薬防止は服薬の保管を鍵のかかる所で管理し、服薬の準備はゆっくりでき落ち着いた時間帯にセットし、顔を確認して配り、誤薬防止に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時に備え、応急手当ができるように、年2回は訓練に参加し、連携病院の勉強会にも参加していますが、すべての職員が訓練は受けていますが対応できるのか？		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回は消防の方に指導を貰い消防訓練を行っています。災害時等に力になつて貰いたい気持ちで、地域の方々と大切に、日頃から触れ合う機会を心掛け、協力が得られる様に努めています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	医療に対するリスクに関しては、連携病院から情報を得て家族と相談し、医師、家族、管理者と3名で十分に話し合いを持ち本人と家族の意向を重視し、支援できる様に努めています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員の観察力は高く、一人ひとりの体調の変化を見逃さずに速やかに情報を共有し、対応する様に努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者それぞれの方の病気を理解し知識を持って、ケアに当たってほしいので、朝礼でも何の病気で何の薬を飲んでいるのか？その薬には、どのような副作用の症状がでるのか？説明も時折行い、又薬の説明書綴りも一目で見てわかる様に作成しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食べることの大切さ、便を出す事の重要性を職員は把握し、毎日の運や食物繊維を多く含む食材を取り入れています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者全員口腔内ケアが習慣化されています。その方の力に応じた支援を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を中心に栄養バランスを考え、カロリーオーバーにならない様に心掛け、献立表を記録し食材が偏らないように工夫し、連携病院の献立表を参考にしながら支援しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	病院と連携して予防接種受け、又消毒に関する勉強会に参加したり、マニュアルも作成して感染症に努めています。毎日の掃除、床の消毒を行いほごりに気をつけ清潔、手洗い、うがいを心がけ、外部からホームへ入る際も消毒をお願いし、履物のスリッパも毎回消毒を行っています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒を夜勤帯で行い、衛生面には十分に気をつけています。食材は新鮮な品を選び、梅雨時は特に気をつけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	診療所を改造して開設しましたので、家庭的な雰囲気を出す為に観葉植物や四季折々の野花を摘んで来て、季節感を出し自然な感じで生て、利用者や訪れる方々を喜ばす工夫をしています。岬の生け花は花屋さんにも好評です。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の声のトン、テレビの音や不快な音に気をつけ、陽射や照明は最初の外部評価で助言を貰い、改善しています。共用の空間は季節感を採り入れ壁一面に毎月職員と利用者で作品を作り飾っています。月初めは壁一面が変わるのを私たち家族の楽しみの一つです。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりで過ごしたい時や気の合った友達と過ごしたい時は、玄関から入った場所に、職員手作り和室のコーナを設け、居心地良く過ごせる様に工夫しています。利用者同士で過ごせる娯楽室は、どの角度からも職員が見守りできる様に鏡を利用して工夫をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は居宅の延長上にあり、利用者の希望を取り入れて、使い勝手がいい個性的な居室にしています。使い慣れた家具をお願いしていますが、ほとんどの利用者が、新しい家具を家族に買って貰い、新しいダンスの開け閉めしを喜び又ダンスの服の出し入れを楽しみのひとつと考え、服の整理をする支援もしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の換気と寝具を整える事は習慣化され、利用者が退室後は実施しています。換気や空気の調整を行い、臭いに気をつけています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は両サイドに手すりを設けて、身体機能を活かすための工夫をされ、トイレは広く障害物は取り除いて安全で自立した生活ができる様に工夫しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方の持っている能力を判断した上で、持っている能力を活かし、手を出し過ぎずに。自立だと、つけ離すのではなく、出来ないところをさりげなく支援しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭と言う程広い敷地はないですが、外にでると保育所や学校への通学路で子供達との触れ合いや地域の方たちとの会話を楽しむ事ができます。毎日のように日向ぼっこを楽しんだり、施設の周りを歩行訓練に利用して活用しています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

県道から少し中に入り、静かな住宅街の中にホームがあります。一步外に出ると地域の皆さんや子供達に声を掛けられ自然に会話が弾み、地域の方や子供達も気軽に立ち寄ってくれます。子供達は「ただいま」とホームを覗いて帰って行く子もいます。岬の自慢は安全に散歩のできるコースがあることです。広い道路ですが車の通りも少なく、静かな緑の中を3分程歩くと溜池に着きます。その周りは歩道で季節の色とりどりの花が咲きみだれ、鴨の(花子)亀の(亀太郎)がいて、そのほとりの木陰には、地域の老人の方が、毎日15名ほど集まってお話を楽しんでいます。岬の利用者もその仲間に入れてもらい会話を楽しむ事ができます。散歩は利用者の楽しみのひとつとなっています。天気の良い日には毎日の様に岬の利用者が名前を付けた、亀太郎、花子に会いに散歩を楽しんでいます。(事業所として力を入れて取り組んでいる点) 利用者の笑顔と利用者の体調観察・排泄の自立・職員間の連携・毎食後の口腔内ケア)に特に力を入れて取り組んでいます。